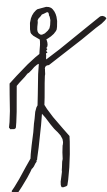


がんばれ!!



新連携・地域資源活用・農商工連携

第50回

千葉県初の養殖銀鮭を「江戸前銀鮭」としてブランド化

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 経営支援部 ハンズオン支援統括室

川端 伸清

紹介事例の概要

企業名	株式会社西川
認定区分	農商工連携
認定事業名	早期水揚げが可能な養殖銀鮭の生産と流通形態の構築及び加工品開発による千葉県産銀鮭ブランド化事業
認定日	平成25年7月8日

銀鮭は、紅鮭や白鮭の代用品として昭和の中頃より食用に用いられてきた。比較的安価であるが脂がのり美味なため、塩鮭や鮭の切身、コンビニ用のおにぎり等によく用いられる。

今回ご紹介する株式会社西川（千葉県勝浦市、齋藤政宏社長 以下、同社もしくは株西川）は、創業155年の水産加工部門、鮮魚荷受部門、鮮魚卸売部門及び廻船部門を営む老舗企業である。同社は、この銀鮭専用の加工場を有しており、銀鮭の輸入、加工、卸販売が主力事業となっている。



齋藤政宏 社長

◆ 勝山漁協との連携により銀鮭養殖を開始

同社は、これまでチリから安価な養殖銀鮭を

開発輸入していたが、近年、中国等の消費量が急速に拡大し、今後価格高騰による輸入量減少が懸念されている。また、銀鮭は養殖に適した商品で、日本国内生産量の約90%を宮城県産が占めているが、東日本大震災により国内生産量が減少し、安定的な仕入先を確保することが課題となっていた。

一方、鋸南町勝山漁業協同組合（千葉県安房郡鋸南町勝山、以下勝山漁協）は、東京湾に面した勝山漁港沖に年間を通じて波が穏やかで生産性の高い養殖場を有しており、マダイ、ハマチ等の養殖事業を30年以上に渡り行ってきた。しかしながら、近年は天然ブリが大量に供給されているため養殖物へのニーズが低下し、市場性が高い養殖品の新規開発が課題となっていた。また、当養殖場は黒潮の影響を受けて水温が高く、毎年宮城県産より約1～2ヵ月早い4～5月に水揚げが可能で、同社の有する販路と物流システムを組み合わせることで高鮮度の銀鮭を食卓に届けることができる。

こうした同社の国内産養殖銀鮭を調達したいというニーズと、同社と以前から取引関係のあった勝山漁協の新しい養殖品を導入したいというニーズがマッチして、両者が連携して銀鮭養殖事業を行うことになった。勝山漁協と事業化を協議している時に千葉県中小企業団体中央会から農商工連携事業を紹介され、平成25年7月に認定を受けた。

◆ 銀鮭養殖技術の構築と加工方法の決定

認定後、千葉県水産総合研究センターの支援や助言を受けながら、稚魚の馴致、給餌方法の

工夫や養殖場の水温・水質管理方法の改善等の養殖技術を構築し、併せてトレーサビリティを含めた品質管理体制を構築した。この結果、テスト養殖から3年目の平成27年には認定後初めて1.5～2kg超の銀鮭を水揚げした。



水揚げされた勝山産養殖銀鮭

なお、同社の銀鮭養殖事業は、当初から品質保証室室長である鈴木正憲氏を中心に行っており、生簀への給餌は鈴木氏と勝山漁協の養殖担当者の計6名で行っている。



鈴木正憲 品質保証室室長

また同社は、既存取引先である千葉県内のスーパーで、消費者500名を対象にしたテストマーケティングを行い、加工方法を決定した。そして、近隣の株式会社ユタカ水産と連携して、朝水揚げした銀鮭をフィーレに1次加工し、(株)西川の物流システムを活用した配送体制を整備したため、商品価値低下を防げるようになった。しかしながら鈴木氏は、「営業担当者とは頻りに連絡を取っているが、天候により水揚げが不可能な場合も多々あり、出荷量の調整が難しい」と語る。

◆ 積極的な販路開拓

パンフレット等の営業ツールを作成して、同社の既存取引先である千葉や東京の大手スーパー等に直接営業を行ったり、勝山漁協の直営食堂でバイヤーを対象に試食会を開催して販路を広げた。この結果、千葉や東京の大手スーパー、近辺の観光施設の土産物店、大手回転寿司チェーン等でも取り扱ってもらえるようになった。

◆ 連携体制の強化

同社東京営業所統括課長の伊藤裕輔氏によれば、連携認定後の平成26年度には銀鮭が大きく生育して商品価値が高くなり、社員の販売意欲が向上した。また、社内で全体販売会議が開催され、製販の情報交換が盛んに行われるようになる等の連携体制が強化されたという。

勝山漁協とも意思疎通が図れるようになり、シケの時にも生簀への給餌を手伝ってくれるようになった。また、勝山地域の鮮魚店や近辺の地魚料理を提供する飲食店でも銀鮭を取り扱うようになる等、地域一丸となった連携体制も強化されつつある。

◆ 今後の意向

今後について、伊藤氏は「この養殖銀鮭を『江戸前銀鮭』としてブランド化したい。平成27年度は、商標登録・意匠登録を行い『江戸前銀鮭』のラベルを作成したい。さらに観光客に銀鮭の養殖風景を見に来てもらい、体験観光も広めていきたい。勝山地域全体の江戸前ブランド化も図り地域活性化に貢献したい」と語る。また、鈴木氏は「銀鮭養殖事業の採算が取れるようにしたい。稚魚購入先の検討、養殖技術や品質管理体制の確立、営業ノウハウを持った後継者の育成等年々異なった課題が生じてくるが、全て対応策を講じていきたい」と意気込みを語る。

千葉県初の養殖銀鮭「江戸前銀鮭」のブランド化に取り組み、それを活用して地域活性化を目指す(株)西川の動向に今後も注目したい。